

## 研究機関に試験機納入



日本水庄工業所の複合水圧試験機

## こだわりの技術で大口受注

阪府豊中市)は創業以来、「液圧」にこだわり、現在はステンレス加工機や耐圧試験機、液圧を用いた金属加工機械などの生産を主力事業とし、重工業を中心に幅広い業界に納入している。現社長の山本知弘は「固有の技術を深めることで、これまで生き残ることができた」と語る。当時液圧技術は先端産業であり、参考

文献も限られた。創業者・山本俊雄は海外メーカーに書面で依頼し、カタログを送付しても理解できず、技術を深め、代々受け継がれてきた。大学から「固有の技術を深めることで、これまで生き残ることができた」と笑みを浮かべる。

同社は現代に至るまでこのこだわりを受け継いでいる。研究機材を納めるとある大学の研究者から「ヤマスイ」とかっこいいすぐ辞めてしまつた。大手のメー

リカースは強く残つていているという。「今まで必要としてもらえたのは本当にありがたい

試験が要求されるな

ど、オーダーメード品

に関しては、今でも大

口の案件が舞い込む。

知弘は「試験機全体

で5億円、部品1点2

000万円といふ世

界。万が一、故障があ

つた時に部品の出所が

あるようだ。(敬称略)

いが、もし安心して任

せられる物好きがいる

なら、海外出身でも任

せる可能性はある」と

思われる。ただし、

柔軟な姿勢だ。同社の

経営理念の末尾には

「洋々として大海を満

たし、発しては雲とな

り雨と変じ霞(あら

れ)と化して、凍つては

玲瓏(れいろう)たる

その性を失わざるは

「洋々として大海を満

たし、発しては雲とな

り雨と変じ霞(あら

れ)と化して、